

令和5年度 学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・「学校の授業はわかりやすい」(生徒)の肯定率は、令和4年度72%と、3年度77%から減少したが、改めて各教員の授業内容の検討や職員研修の実施、授業研究期間の設定など、授業改善に取り組んだ結果、令和5年度は78%に改善した。今後も生徒の学力状況やニーズの変化に対応しながら、わかりやすい授業を展開していきたい。

・「授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がある」(生徒)の肯定率は、令和3年度81%、4年度85%、5年度88%と着実に上昇しており、様々な授業において発表する機会が充実してきたことがわかる。特にトネ究(総合的な探究の時間)の3年間継続したカリキュラムにおいて実施している個別探究の影響は大きいと考えられる。

・「学習の評価はテストの点数だけでなく生徒の努力や取組みの変化等を含めてなされている。」(生徒)の肯定率は、令和4年度84%、5年度88%と上昇した。2年生までが新教育課程に対応したカリキュラムに切り替わり、学びに対する姿勢などが評価に加わるようになったことが影響していると考えられる。

【進路指導等】

・「ホームルームなどで進路についての情報が提供されている」(生徒)の肯定率は、令和4年度96%、5年度95%である。1年次から計画的に実施されている進路指導と学習支援クラウドサービスを活用した最新の進学情報の配信が有効であったと考えられる。

・「学校は長期休暇中の講習や進路指導等を実施している」(生徒)の肯定率は、令和3・4年度95%、5年度は96%であり、生徒のニーズに応じた講習が実施できていると考えられる。

【生徒指導等】

・「学校の生活指導の方針について納得できる」(生徒)の肯定率は、令和4年度68%が5年度72%と上昇した。引き続き、生徒に対して「高校生として当たり前のことを当たり前に行うこと」を伝え、全員が安心して学校生活を送れるように指導していきたい。

・「悩みや相談に親身になって聞いてくれる先生がいる」(生徒)の肯定率は、令和3・4年度74%、5年度は75%である。教員による生徒に寄り添う指導は実施できていると考えられる。今後も生徒の小さな変化を見逃さない態勢を維持していきたい。

【特別活動等】

・「部活動に積極的に取り組んでいる」(生徒)の肯定率は、令和4年度77%が5年度78%。「部活動を通じて成長している」(生徒)の肯定率は、令和4年度86%が5年度は89%と上昇している。部活動加入率が80%を超える本校で、生徒たちが真剣に部活動に取り組ん

でいることがわかる。また、今年度も複数の運動部が近畿大会に、複数の文化部が全国大会に出場しておりその影響もあると考えられる。

・「文化祭や体育大会は活発で楽しい」(生徒)の肯定率は、令和4年度83%が5年度90%と上昇した。今年度は、文化祭の服装を「公衆道徳に反しない限り自由」というルールで実施し、生徒たちの自主性に任せたので、このような結果がでたと思われる。今後も生徒たちが自主的に取り組む学校行事を実施していきたい。

【学校運営等】

・「学校に行くのが楽しい」(生徒)の肯定率は、令和4年度83%が5年度85%と上昇した。特に「A:良くあてはまる」と47%の生徒が回答しており、学校行事等の活性化の影響が強くでていると思われる。

・「学校は、学習と行事・部活動の両立を図るように指導している」(生徒)の肯定率は、令和4年度81%が5年度87%に上昇した。本校の「行事も！部活も！勉強も！」の指導に多くの生徒たちが賛同し、頑張っていることが示されている。

・「学校での授業や部活動を通じ、近隣の学校や地域との交流機会がある」(生徒)の肯定率は、令和4年度48%、5年度49%である。新型コロナウイルス感染症対応による制限がなくなったので、地域貢献や他校種との交流をいっそう積極的にすすめていく。